

動画編集を始める前に

ビデオは編集することによって命を吹き込まれ作品になります。

簡単に言うと、ビデオは映像＋音で成り立っている世界。何のために？ 誰に見せるのか？ わかりやすく、音を丁寧に拾いながら、シャッターチャンスに気を配った撮影が良い作品を生み出します。

難しくはありません。撮ることは編集すること。編集することは、撮ること。これらは表裏一体なのです。

そこで、いざ動画編集をはじめる前に、見てもらえる作品作りに欠かせない、動画編集の基本を紹介します。

動画編集の大原則

動画編集の講座を始める前に、まず何のために動画編集をするのかを考えてみましょう。

動画編集の目的を尋ねられると、ほとんどの人が「誰かに見せるため」、「記録として残すため」とお答えになります。つまり動画編集をする目的は、“伝える”ことだと言えるでしょう。それでは、どのようなものが伝わりやすいのでしょうか？ 私は“伝わりやすい”＝“誰にでも分かりやすい”だと考えています。

動画を編集する時、「面白いものを作ろう」、「こだわったものにしよう」という考えが先行しがちですが、まずは誰にでも分かりやすいように編集する。これが動画編集の大原則です。

誰にでも分かりやすいように編集する

それでは、分かりやすく編集されたものとは、具体的にどのようなもののことを言うのでしょうか。ここで小学校で習った作文の基本を思い出してみましょう。“5W+1H”——いつ(When)、どこで(Where)、誰が(Who)、何のために(Why)、何を(What)、どのように(How)したのか。これをはっきりさせましょうと、教えられましたよね。同じことは、そのまま動画編集にも当てはまります。“5W+1H”が明確に伝わるように編集された作品が、誰が見ても分かりやすいものなのです。

分けて、捨てる、並び替えるが、基本

動画編集とは、元となる動画の中から使いたいカットを選んでつなげる作業だと考えられがちなのですが、本当はその全く逆。使いたいものを選ぶのではなく、不要なものを選んで捨てる、この“引き算”の作業が動画編集の基本です。そのためには、最初に撮影してきた映像を細かいカットに分ける必要があります。次にその中から不要なカットを取り除いていきます。するとおのずと必要なカットだけが残るというわけです。最後に、そのカットを見る人により分かりやすくするために並び替え、つなぎ合わせます。この“分けて、捨てる、並び替える”3つのステップが、動画編集の基本です

まず生徒さんが編集したのを見ると、約1分、淡々としているという印象を受けませんか？ 全体として動きの変化が少なく、全体として平べったいものになってしまっています。

その原因が、カットのつなぎ方にあります。そこで、知っているのと知らないのとでは、作品に大きな差をもたらす、ついやってしまいがちな“動画編集のタブー”をご紹介します。



ここがPOINT | 動画編集の3つのタブー

- 1 パンやズームの最中のカットでつながない
- 2 アクションのカットは、動きのピークを中心に、前後を残して使う
- 3 同じサイズのカットをつながない

※ パン: 撮影でカメラを横に振ること

<http://www.jp.sonystyle.com/Nws/Handycam/Special/Edit/Lesson1/index.html>



撮影の前の準備

いざ撮影しようとする、どんなカットを撮ればいいのか分からないと悩む方が多いようです。みなさんはまず撮影する前に、どこでどんな風に撮るか、計画を立てていらっしゃいますか？ プランがなければ、撮るべきカットを撮り忘れてしまったり、撮影時の移動に無駄があり逆に疲れてしまったりしてしまいます。楽しく、そして合理的に撮影するためにも、明確な台本までは要らないにせよ、ある程度の計画性が必要です。ではそのプランはどのようにして立てればいいのか。

ここが POINT

実際に撮影に入る前に、復習しましょう。

編集を見通した撮影の基本は

- 止まったカットを撮るようになる
- 引いて撮る 
- 寄って撮る 
- さらに寄って撮る

さらに、撮影する際に各カットをあらかじめ10秒くらいで撮っておくと、編集時にカットを切り分けたり、削除したりするときに楽になります。

編集作業

では実際に編集作業を始める前に、「動画編集をはじめる前に」でもご紹介した動画編集の基本ステップを復習しておきましょう！

→ **ここがPOINT** | 動画編集の基本ステップ

- 1 撮影してきた動画を細かいカットに分ける
- 2 いらぬカットを削除する
- 3 残ったカットを並び替え、つなぎ合わせる

◆ **使えないカットとは・・・**

- **ブレていたり、焦点が合っていないなど、技術的に劣っているカット**
例:ブレてしまっているもの
- **カメラマンの手など、無駄なものが写ってしまったカット**
例:カメラマンの肩が写っている
- **パンやズームなど、常に動き続けているカット**

→ **ここがPOINT**

取り込み中に、もう一度動画をよく見て、**自分がどんなカットを撮影していたかを記憶する**ようにしましょう。編集とまいらぬカットを削除して、残ったものの中から選んでつなぎ合わせる作業。どんなカットがあったかを記憶しているかどうかで、手際よく編集できるかどうかが決まります。

また撮影時によいものが撮れたと満足していても、冷静に見てみると案外そうではなかったという話はよくある話。自分の撮ったものを冷静に見直すという意味でも、取り込み中に動画をよく見るようにしましょう。